
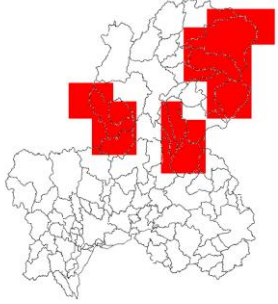


カミコウチテンナンショウ	<i>Arisaema ishizuchiense</i> Murata subsp. <i>brevicollum</i> (H.Ohashi et J.Murata) Seriz.	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		サトイモ科
選定理由	生育地に限られているうえ、個体数が非常に少ない。	写真(清水英彦)
形態の特徴	葉は通常1個、希に2個、偽茎部は葉柄部より少し短い。葉身は分裂して5小葉、希に7小葉になる。小葉は倒披針形あるいは長楕円形、不規則な鋸歯が出ることもある。花序柄は葉柄より短い。仏炎苞はほぼ全体が赤紫色の斑紋で被われる。舷部は卵形で鋭尖頭。花序付属体は有柄で太い棒状から棍棒状、赤褐色。	
生態的特徴	亜高山帯の林縁やや明るい林床に生育する。葉と花序は5月頃出現する。	
分布状況	岐阜県、長野県、福井県に分布する。岐阜県では美濃地方の北部と飛騨地方東部に分布する。	
減少要因	開発による生育地の破壊と山草愛好家による採取。	
保全対策	生育地の保全と採取の禁止。	
特記事項	岐阜県とその周辺に限られて生育しており、亜高山帯の開発には特に注意が必要である。	
参考文献		

文責:高橋弘